

日本家政学会
被服構成学部会誌

第36号

平成27年3月

目 次

ごあいさつ	1
日本家政学会功労賞を受賞して	3
木岡悦子先生を偲ぶ	5
平成 26 年度 被服構成学部会 総会	6
平成 26 年度 被服構成学部会 夏期セミナー	
プログラム	7
講演 1 「ビジネスの立場から次世代に伝えたい技 -アパレル商品開発の技-	8
講演 2 「紳士服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技 -オーダーメイドでの身体に合わせた着やすい衣服を作る マニピレーション技術 (立体・デザイン) -」	9
講演 3 「婦人服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技 -日本とフランスのプレタポルテの服づくり-	10
夏期セミナーに参加して	11
平成 26 年度 研究例会報告	
「モード雑誌 JOURNAL DES DAMES ET DES MODES の魅力 -装いと人と社会-	12
「源氏物語に描かれた装束」	14
若手研究者研究紹介	
「高齢女性の QOL 向上をサポートする衣服設計システム開発のための基礎研究」	16
第 15 回全国中学生創造ものづくり教育フェア報告	18
関連学会短信	
日本繊維製品消費科学会	20
日本衣服学会	20
平成 26 年度 研究動向 (修士論文テーマ・科学研究費補助金研究課題)	21
会務報告	23
平成 25 年度 被服構成学部会 夏期セミナー収支報告	25
貸借対照表・監査報告書	26
平成 25 年度 被服構成学部会 収支計算書	27
平成 26 年度 被服構成学部会 収支予算書	28
お知らせ	29
ご案内 (平成 27 年度夏期セミナー)	30
被服構成学部会 規約・申し合わせ	31
平成 26・27 年度役員	34
入会申込書および変更届, 退会届	35

ごあいさつ

(一社) 日本家政学会被服構成学部会
部会長 森 由紀

春風がやさしい季節となりましたが、部会員の皆様には、無事卒業生を送り出しホッとされたのもつかの間、新年度のご準備にお忙しいことと存じます。

ここに、部会誌 36 号をお届けいたします。36 という数字は部会設立からの年月の重みを表していますが、さらに前身の被服構成学研究委員会から続く長い歴史の中で、被服構成学の発展に尽くされた偉大な先生方の訃報が、昨年度から今年度にかけて相次ぎました。深い哀悼の意を表しますとともに、先生方が遺されたものの大きさを思い、心引き締めて参りたいと存じます。

一方、平成 14・15 年度に部会長を務められた高部啓子先生が日本家政学会功労賞を受賞されるという、うれしいニュースもございました。日本家政学会ならびに家政学に貢献されたことによりますが、特に被服構成学分野におけるご功績は周知のことであり、改めて敬意を表するものです。

さて、部会長という大役をお受けしてから 1 年が過ぎようとしていますが、お陰様で予定していた活動を遂行でき、ひとえに運営委員の先生方をはじめ部会員の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

大塚美智子副部会長を研究代表者として、科学研究費補助金基盤研究 A の採択を受けて進められている人体計測が本格的に始まり、大学生と高齢者の多くのデータが得られています。先生方には夏期休暇を返上して取り組んでいただき、その献身的なご協力ぶりに頭が下がる思いです。当初の予定より中間層の被験者数を増やし、より精度の高いデータベースを作成するために、引き続き、科研費の申請を行いました。蓄積されていくデータは部会の財産ともいえますので、より良く活かす方法を共に考えていきたいと存じます。さらに多くの部会員の皆様にご協力をお願い申し上げます。

夏期セミナーは「次世代につなぐ服づくりの技」をテーマに開催され、多くの参加を得て好評裏に終わることができました。アパレル商品開発、オーダーメイドの紳士服およびプレタポルテの婦人服づくり、それぞれの分野でご活躍の講師の方々から師範も交えたお話を伺い、プロの技と情熱に感動し、是非とも次代に伝えていかなければと、教育上の責務を痛感したことでした。実行委員長の土肥麻佐子先生をはじめ、実行委員の皆様方には大変お世話になりました。

「全国中学生創造ものづくり教育フェア」については、引き続き後援・協賛を行い、川端博子先生が学生さんたちとともにご尽力くださいました。

研究例会では、甲南女子大学図書館所蔵の貴重書「JOURNAL DES DAMES ET DES MODES」と「源氏物語」関連図書を見学し、そこに描かれた服飾について講演をいただきました。文化的背景も時代も全く異なるそれぞれの服飾の特徴的な魅力と同時に、時代も地域も超えた不変の魅力を感じていただけたことと思います。

平成 27 年度の夏期セミナーは、「被服と安全・安心」(予定)と題して、川端博子先生を実行委員長に、8 月 27・28 日、名古屋にて開催いたします。様々なライフステージや場面において、より良い衣生活を実現するための多くの示唆が得られることと存じますので、ふるってのご参加をお願いいたします。

終わりに、次年度も引き続き部会運営にご協力をお願い申し上げますとともに、部会員の皆様のますますのご発展を祈念いたします。

日本家政学会功労賞を受賞して 学会活動を楽しんで！

元実践女子大学 高部啓子

この度、日本家政学会功労賞を受賞いたしました。身に余る光栄なことと感謝し御礼申し上げます。

私が家政学会に入会したのは大学卒業の翌年1966年ですので、半世紀近くお世話になっていることになります。その年、大阪市立大学で開催された年次大会で研究発表しましたのが私の初めての学会活動です。その頃、恩師の柳澤澄子先生が「既製衣料の基準寸法設定のための日本人体格調査」という国の大きなプロジェクトの中心メンバーでいらっしゃいました。私はその調査実施本部詰めというお役目で、その後は助手という立場で大学の研究室に7年間ほど勤務しておりました。その間、高度経済成長の時期を経て、家政学会が、会員数を急速に伸ばし、大学近くのマンションを学会活動の場として購入するなど、大変な勢いで発展していくのを近くで見えておりました。一方、大学では研究業績が強く求められるようになり、そのような中で、お互いに切磋琢磨して業績を上げていこうという目的で発足したのが被服構成学研究委員会でした。その発足の事務を担当した頃から私にとっての学会は、発表の場だけではなく、中に入ってつくり上げていく場になったように思います。

被服構成学研究委員会や被服構成学部の活動では、体格調査で関わらせていただいた全国規模の被服構成学関連の先生方はもちろんのこと、その周りにいらっしゃる先生方とも交流も深めることができました。さらに学会本部の各種委員会委員や理事をさせていただき、被服学分野以外の先生方との交流も深めることができました。また自分の大学とは異なる他の大学の状況も垣間見ることができました。振り返ってみますと、学会活動は私に人脈や視野の拡大という大きな宝物を与えて下さったと感謝しています。

国際交流委員会にも長く関わらせていただきました。澤井セイ子先生の元でARAHEの事務局を4年間担当させていただき、また国際学会に何度も参加させていただく内に海外の先生方との面識も増えました。若い研究者には国際学会に積極的に参加されて、発表だけでなくいろいろなイベントにも顔を出されることをお勧めいたします。海外の研究者と人脈を築くチャンスです。これからはグローバルな活動が求められます。言葉の壁を乗り越えて、日本の知を世界に広げていってほしいと願っています。

学会活動は、ある種ボランティアです。公私ともに忙しい昨今の研究者の皆様はその余裕を求めるのは難しいかもしれません。でも私は、努力は必ず報われると信じています。時間的経済的工夫をして是非、学会活動を楽しんで下さい。稿を終わるにあたり、たくさんの経験をさせていただき、育てていただいた日本家政学会に心から御礼申し上げます。

<ご略歴>

1965年3月 お茶の水女子大学家政学部被服学科卒業

1985年3月 大妻女子大学大学院家政学研究科博士後期課程「被服環境学専攻」修了（学術博士）

1965年4月～1968年9月「既製衣料の基準寸法設定のための日本人体格調査」（通商産業省工業技術院の企画）の期間中、調査実施本部詰

1968年10月～1972年3月 お茶の水女子大学文部教官助手、その後大学非常勤講師を経て、

1988年4月～2000年3月 大妻女子大学短期大学部助教授、教授

2000年4月～2013年3月 実践女子大学生生活科学部教授

この間、家政学会、日本繊維製品消費科学会、日本人間工学会などにおける学会活動の他、日本工業標準調査会繊維部会専門委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、大学設置・学校法人審議会専門委員（大学設置分科会）、社団法人日本衣料管理協会専門委員、常任委員、財団法人日本ユニフォームセンター評議員などを歴任。

<受賞理由>（日本家政学会誌VOL. 65 No. 9（2014）掲載）

被服構成学分野における体型計測の研究に従事され、日本家政学会本部理事を4年、本部監事を2年務められました。

委員会活動としては、第20回IFHE世界大会運営委員、国際交流委員会委員長、関東支部副支部長、被服構成学学部会部会長など多数の委員を歴任されています。

以上のとおり、高部氏の日本家政学会および家政学への貢献は多大なものがあります。

木岡悦子先生を偲ぶ 公私にわたるご指導に感謝して

甲南女子大学 森 由紀



木岡悦子先生は昨年9月21日、85歳でその生涯を閉じられました。先生は被服構成学部会運営委員、副部長を経て、平成4・5年度に部会長を務められ、部会誌特集「被服構成学に関する教育の試み」発刊の指揮をとられるなど、長きにわたり部会の発展に寄与されました。

昨年2月、久々にお目もじかなった楽しいひと時は、ご入院前のお元気な先生との、予期せぬ最後の時となりました。

私が大学生の時、増田茅子先生の講義を聴講されていた先生とお目にかかって以来、長い長い間、教育・研究はもとより家庭円満の秘訣や日々の献立に至るまで、公私にわたりお導きいただきました。

先生は常に溢れんばかりの研究のアイデアをおもちで、それは、被服構成学の意義を広く知らしめるために、真摯に問題意識をもち続けておられたからにほかなりません。「研究は人を幸せにするものであって、決して研究のためのものであってはなりませんよ。」とのお言葉が深く心に残っております。

また、先生はそこそこの経歴上、教育にも熱意をもってあたられ、家庭科教員をめざし教育実習を控えた学生に対しては、まさに手とり足とりでした。ほんのわずかでも学生の長所を見出して最大限に褒められる、といったご指導ぶりは実習においても然りで、針も持てない学生がいつのまにかドレスを作れるまでになるのです。誰が言い出すともなく、学生たちの間でささやかれるようになりました。「木岡マジック」その種明かしは学生への深い愛情だったのです。

ご主人様とのなれそめやお子様方、お孫様たちとの心温まるやりとりもたくさんお話しくささいました。仕事のために、まだ幼かったご長男を泣く泣く富山のご実家に預けられたご経験など、ほろりとさせられることも度々でした。それだけに、私が育児休暇を終え長女を保育所に預け始めた折には、共に涙してくださいました。そして、度重なる長女の発熱に先が見えなくなっていたとき、「1年先、2年先のことを考えてはだめですよ。1日1日を何とか乗り切れば、その積み重ねで自然と時は流れますよ。」とのお言葉をいただいたのです。沈んだ心がどれほど軽くなったことでしょうか。そして、30年もの月日が無事に流れたのでした。

ご退職後も前向きな生き方にお変わりなく、ご自身による美しいイラスト入りのご著書を何冊も上梓されました。とりわけ、不本意にも絶筆となった「おひとりさまの愉しみ」「おひとりさまの愉しみ再び」では、豊かな感性と、脳梗塞というアクシデントを乗り越えられ、なお良く生きようとされる崇高なまでのお気持ちの強さを感じられます。是非「みたび」を・・・、との私たちの願いは叶いませんでしたが、最後の最後まで輝き続けられた生き様をお手本にさせていただきます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

<ご略歴>

- 1929 富山県滑川市に生まれる
- 1950 奈良女子高等師範学校卒業
- 1950～1969 大阪市立船場中学校、奈良県生駒町立生駒中学校、奈良県立田原本農業高等学校教諭
- 1969～1975 奈良県教育委員会学校教育課指導主事
- 1975～1978 奈良佐保女学院短期大学助教授
- 1978～1999 甲南女子大学短期大学部教授
- 1994 学位取得（医学博士・奈良県立医科大学）
- 1999 甲南女子大学名誉教授
- 1999～2004 京都女子大学教授

<主なご著書・ご業績>

- ・「家庭科教育学」共著、ミネルヴァ書房（1980）
- ・「自立と選択の被服構成学」編著、ミネルヴァ書房（1990）
- ・「おひとりさまの愉しみ—脳こうそくを乗り越えて」ミ

ネルヴァ書房（2011）

- ・「おひとりさまの愉しみ再び—ふるさとからの道」
- ミネルヴァ書房（2014）
- ・「タイトな着衣での負荷作業時における身体的影響について」（日衛誌，41（1），1986）
- ・「クラスター分析による最近10年間の若年女子の人体形態の推移に関する検討」（日衛誌，49（1），1994）
- ・「妊娠後期の衣服設計に関する基礎的研究」（家政学会誌，45（2），1994）
- ・「歩き始めの子どもを対象とした靴設計に関する基礎的研究」（家政学会誌，47（4），1996）
- ・「阪神大震災被災者の衣生活行動」（家政学会誌，48（10），1997）
- ・「中高年にみるリュックサックの有用性について」（家政学会誌，50（1），1999） など

平成 26 年度 被服構成学部会 総会

日時：平成 26 年 5 月 24 日（土）

会場：北九州国際会議場 3 階 32 会議室

平成 26 年度被服構成学部会総会は、鈴木明子副部会長の司会により下記のとおり進行した。

総会次第

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. 開会の辞 | 鈴木明子 |
| 2. 部会長挨拶 | 森由紀 |
| 3. 議長選出 | 植竹桃子 |
| 4. 議事 | |
| (1) 平成 25 年度事業報告 | 土肥麻佐子 |
| (2) 平成 25 年度会計報告 | |
| 1.平成 25 年度収支決算報告 | 田中早苗 |
| 2.平成 25 年度夏期セミナー会計報告 | 十一玲子 |
| 3.平成 25 年度貸借対照表 | 田中早苗 |
| (3) 平成 25 年度会計監査報告 | 布施谷節子 |
| (4) 平成 26 年度事業計画（案） | 森下あおい |
| (5) 平成 26 年度夏期セミナーについて（案） | 土肥麻佐子 |
| (6) 平成 26 年度予算（案）について | 中村邦子 |
| 5. 議長解任 | |
| 6. 報告事項 | 森由紀 |
| 7. 閉会の辞 | 鈴木明子 |

上記の議事について審議し、承認された。

平成26年度（一社）日本家政学会 被服構成学部会
公開夏期セミナー「次世代につなぐ服づくりの技」

期日：8月28日（木）

場所：アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段北4-2-25）

◆プログラム

8月28日（木）	
10:00～	受付
10:30～10:40	開会の辞
10:40～12:10	講演1 ビジネスの立場から次世代に伝えたい技 —アパレル商品開発の技— ファッションビジネス学会 理事 福永 成明 氏
12:10～13:10	休憩（昼食）
13:10～15:10	講演2 紳士服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技 —オーダーメイドでの身体に合わせた着やすい衣服を作る マニピレーション技術(立体・デザイン)— 津坂テーラー 津坂 友一郎 氏
15:10～15:30	休憩
15:30～16:30	パネルディスカッション 婦人服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技 —日本とフランスのプレタポルテの服づくり— NEiSH 代表 西浦 公雄 氏 Dessigns 代表・ファッションデザイナー 星野 貞治 氏 椛山女学園大学 滝澤 愛 氏
16:30～16:35	閉会の辞
8月27日（水）	
17:30～19:30	懇親会 会場：イタリアンレストラン フィオレンティーナ (東京都豊島区目白1-4-1 ホテルメッツ目白1F)

ビジネスの立場から次世代に伝えたい技

アパレル商品開発の技

ファッションリンクス代表取締役 ファッションビジネス学会理事 福永 成明

福永氏の講演は、私たちが子どものころに母親の傍らで見た服作りの本や雑誌の広告のような懐かしい画像から始まった。氏の講説による日本のアパレルのあゆみに、私たちは自らの人生を重ね合わせて「これが流行っていたのはあの頃、これは学生時代…」などと回想を巡らした。福永氏も日本のアパレルが産声を上げた頃に青春期を過ごされ、IVY や VAN に憧れて日本繊維新聞社の記者になられた。その後も日本アパレル工業組合連合会、日本アパレル産業協会、日本百貨店協会など多方面で役員を歴任され、現在もファッションビジネスおよびアパレル業界を俯瞰して解析しておられる。講演は、日本のアパレル産業のあゆみと、その中でどのように商品が開発され、現在どのような状況に直面しているのか、そして2020年代にどのような状況が予想されるのか、ファッション業界において幅広く豊かな見識をお持ちである氏独自の見解やエピソードを交えながら、限られた時間の中でわかりやすく楽しくお話し下さった。

講演の前半は、1950年代から‘70年代の社会背景と衣服事情、既製服の普及と流行・スタイル・ファッショントレンドなどを丁寧に説明され、この10年ごとにファッション業界がドラスティックに変化したことを示された。80年代までファッション界をリードしてきたのは百貨店であったが、DCブランド台頭の感性の時代になると「理性型消費の価値観は‘いいか悪いか’、感性型消費の価値観は‘好きか嫌い’か。悪いものは改善すれば良いものになるが、嫌いなものはどうしたら好きになるのか。感性は好き嫌いで評価される。」と明解に言及。また、80年代まで業界を主導してきたメーカーの倒産やブランドの衰退と90年以降の消費者の価値観やニーズの変化については、マズローの欲求段階説を用いて解説され、現在の欲求は最上階の‘自己実現欲求’、この欲求が消費行動やファッションの嗜好性に現れており、若者は人と同じ格好をしようとしなない。古着には生命力があり、その生命力が若い人たちに光って見える。ファストファッションに生命力はあるか？ エシカルのないものはダメ、など図録にはない氏の所見がたいへん興味深かった。

現在のファッション業界にはトレンドやアイデンティティはないがクリエイトは大事である、と仰られる氏が紹介下さったのは、既成の枠に捉われない造形を体現化する三宅一生氏、災害時には避難着になる『‘究極の家』をコンセプトとした津村耕祐氏、原型に縛られない自由な服作りを提案する森永邦彦氏であった。また、台湾の造形大学で夏みかんの皮を剥くように原型を作ったワークショップや、早稲田大学繊維研究会の‘過程が生む衣服の新たな形’などの服を新しい発想でデザインする取り組みに、氏は「今、売り場にある衣服は‘売る’を仕立てている訳でほとんどが売りたいために並べられたもの。服を‘着る’という状態でどれだけ売り場に並んでいるのか。作者の意図と全く関係のない状況のものが売り場に並んでいる。」と述べられた。これからの衣服はプロが作るB2C(Business to Customer)ではなく、C2C(Customer to Customer)、カスタマーも供給者となり得る時代になる。iichi, tetoteのようなハンドメイド集団による素朴なメッセージがメディアに載り、ビジネス側に対する圧力となりつつあり、ファッションビジネスはどのような形でマーケットやを作っていくのか、業界人だけで考えても難しく、考え方の違いをいかに共有化していくのかを考えないと行き詰まる、と示唆された。最後に、パリのオートクチュールショーで発表された3Dプリンタのドレスで次世代の服作りへの展望を教示されてお話を終えられた。(記録 田中早苗)

講演2 紳士服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技

オーダーメイドでの身体に合わせた 着やすい衣服を作るマニピレーション技術（立体・デザイン）

津坂テーラー・津坂友一郎氏

講師の津坂友一郎氏は、長い間イタリアで学ばれ、昭和49年にはイタリアファッションコンテストで金賞を受賞されるなど、数々の賞を受賞されている。津坂氏は、動きやすさや着心地はもとより、「流行を楽しんで着ることが重要である」という自身の考え方を基本として、平面な生地素材を立体にする方法の「マニピレーション技術」による「採寸・体形把握・パターン・製作」を実施して、着やすくシルエットの美しい服を作り出している。

最初に示範されたのは、寸法の測り方である。それは、元々日本にあった和服の測り方を基にしており、持参されたメジャーを使って、バスト線上部の立体計測（鎌深寸法他）の方法を示された。流行は着丈、スラックス丈に現れ、上着丈が短ければスラックス丈も短くなると説明された。

次に、パターンの説明に入った。紳士物の背広製図は婦人原型とは異なり、体を8角と捉えて「背・脇・前身」各部分に時代に合った余裕量を加えて作図されていた。大切なのは人間のふくらみの部分で、特に全体の3/8を占める厚み部分の袖ぐりのラインが重要となる。作図において最も大切なのは、袖のカーブを中心とした曲線であることを力説された。その後、標準体のパターンを基に、反身体・屈伸体・肥満体の補正型紙を示し、パターン製作と補正で大切なのはボタンの位置で、ボタンを動かさずに補正する方法を説明された。これらが、マニピレーションによる型紙操作である。スラックスにおいても、動きやすくきれいに見せる技術として、センターライン等を基準としたマニピレーション型紙操作が行われていた。全体のバランスについては、タイトか、余裕を付けるかの流行によってフィット感が異なり、バスト・ウエスト・ヒップのゆとりの統一感が大切であると説明された。

続いて、アイロンを使っての実演である。美しいシルエットを形成するには、アイロンによる「くせ取り処理」が必要となる。くせ取りは、天然繊維にある程度やけどをさせることで完成するとのことであった。くせ取り処理には、アイロン操作により生地を「伸ばす・いせる・追い込む」の3つの方法があるが、津坂氏は「伸ばす」ことをせず「いせて、追い込む」ことに重点を置いており、その神業のようなテクニックを示範された。まず、スラックスの裾の説明で、いつもの逆にアイロンを使うことから始まり、膝や脇線のくせ取りテクニックを示された。次に、上着前身頃のダーツ処理をされた。ダーツの地の目をくずさず「いせる、追い込む、いせる」の一連のテクニックは神業のようであり、脇のウエスト線をいせた後のシェイプされたウエストは、大変美しいシルエットが表現されていた。その後、袖や前芯のくせ取り方法を教授された。

最後に、19世紀の終わりから約1世紀にわたる男性洋服の変遷の話があった。婦人服とは異なる紳士服の歴史については、学ぶことが沢山あった。また特殊な服として演奏家（指揮者）が着用する燕尾服について、動いても美しく見せる工夫の説明があった。「今後も『洋服っていいなあ』と、思われるような服を作りたい」という言葉が、印象的であった。

（記録 小山京子）



講演3 婦人服の立場から次世代に伝えたい美しい服づくりの技

ー日本とフランスのプレタポルテの服作りー

NEiSH 代表 西浦 公雄 氏
Dessigns 代表 星野 貞治 氏
相山女学園大学 滝澤 愛 氏

パネルディスカッションは、コレクションパタンナーとして第一線で活躍され、自身のブランドを世界に発信されている西浦公雄氏と、フランスや日本などグローバルに活躍中のファッションデザイナー星野貞治氏をパネリストとしてお迎えし、お二人と親交のある本部会員の滝澤愛先生が進行役を務める形で行われた。

冒頭、滝澤先生から、お二人が共同で手掛けられたブランド「SIZRI BASIC」について紹介があった。「上質」を「BASIC」に落とし込み、ラグジュアリーの新しい側面を提案し、日本のDNAに基づく美意識を世界に発信したい（星野氏）、デザイナーとパタンナーの個性と個性がつながって新しいものが発信できることが楽しみ（西浦氏）と、お二人のブランドに対する思いを話してくださった。

日本とフランスのプレタポルテの服づくりについて、まず西浦氏が二つのことを話された。一つは、アパレル業界の現場が多様化し、メンズとレディースの境界線があいまいになっているということ、ユニフォーム製作やイッセイミヤケのジャケット製作に携わった経験からお話しされた。そのため、メンズ、レディースなど、いろいろな感覚を理解していなければニーズには対応できないが、現在のアパレル業界はゆっくり人材育成をしている時間がないため、常に自分で何が出来るかを意識して、個性を持つことが大切だと強調された。次に、丁寧な服づくりについて、イッセイミヤケの現場で生地や縫製、パターンなど、納得のいくまで何度でもサンプル製作を繰り返された経験から、服に作り手の思いを伝えられるような服づくりが必要で、ファッションは人を幸せにできると話された。

星野氏からは、ファッションは「Passion（情熱）」だという言葉が飛び出した。デザイナーへのあこがれからファッションの道を志された経験から、夢がないと志さない世界であるとも言われていた。フランスでは、プロフェッショナルが分業制で服作りを行っており、一つの道を究めた人々のコラボレーションであって、多様性は求められていないとのことである。特にモデリストへのリスペクトは大きく、縫製工場に専属のモデリストがいることも紹介された。

日本とフランスの服づくりの相違点についてお二人が挙げられたことは、まず、モデリストについてであった。日本にもモデリストは存在するが、パターンの仕事がほとんどで、デザイナーから指示されたデザインに基づいてパターンを製作するのが一般的であり、工場でも作品を指示された通りに縫製するだけである。つまり1から100までデザイナーからの指示が要求される。一方、フランスのモデリストは、パターンだけでなくすべてを把握しているため、デザイナーはアイデアや概念の段階でモデリストに相談し、一緒にデザインを完成させることができるとのことだ。その他、素材や付属品製作においても、違いがあると話された。

最後に、今後の取り組みと次世代へのメッセージとして、西浦氏は、今後も品質を下げることなく丁寧な服づくりをめざしたい、そして、自分の個性を持つようにと話された。星野氏は、夢を持ってこれからも仕事をしていきたい、そして、その時その時代のよい服に触れて勉強してほしいと語られた。

お二人の貴重な経験をお伺いし、服作りへの情熱、愛情を感じることができた有意義な時間であった。

(記録 丸田直美)

夏期セミナーに参加して

広島大学大学院教育学研究科生涯活動教育学専攻

下窪 美咲

2014年8月27・28日に東京で開催された夏期セミナーに参加いたしました。今年度は「次世代につなぐ服づくりの技」というテーマで先生方がご講演をくださいました。ビジネスの立場からのアパレル商品開発の技、マニピレーション技術による美しい服づくり、日本とフランスのプレタポルテの服づくりについて学ぶことができました。

福永先生のご講演では、次世代に伝えたい技としてビジネスの立場からの服づくりの変遷を通して、お話しくださいました。ファッション産業が縮小する中でのオリジナリティの必要性や生き残る日本のモノづくり企業の価値を感じることができました。また、今後ビジネスにおいて“モノ”づくりだけでなく“モノ・コト”づくり（モノ＋サービス）の服づくりが重要になることについても考えを深めることができました。

津坂先生のご講演では、マニピレーション技術を実際に師範を伴って見せていただきました。美しくせとりの技に目を奪われ、美しい服づくりを体感することができました。先生が「若い人に良いものを、着飾る楽しさをわかってほしい」と語られていて、今回の講演のような身体に合わせたオーダーメイドの衣服の素晴らしさを若い人たちが感じる可以增加する機会が増えたら良いのではないかと思います。

西浦先生・星野先生・滝澤先生のパネルディスカッションでは、それぞれのご経験をもとに日本や世界の服づくりについてお話しくださいました。日本やヨーロッパ独自の服づくりからデザイナーとモデリストとのかかわりの違いなどを具体的に教えてくださり、グローバルな服づくりの現状を学ぶことができました。

今回初めて夏期セミナーに参加させていただき、普段の生活では体験できないような技術に触れ、現場での貴重なお話を伺うことができました。セミナーで学んだことを生かして、今後も研究に励んでいきたいと思っております。



福永先生のご講演の様子



パネルディスカッションの様子

平成 26 年度 研究例会報告

モード雑誌 *JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* の魅力 — 装いと人と社会 —

京都光華女子大学短期大学部 大澤 香奈子

■モード誌 *JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* パリ版(1797-1839)

JOURNAL DES DAMES ET DES MODES パリ版は、1797年から1839年の約40年間にわたって刊行された。5日毎に発行され、一月に6号、年間に72号が発行された。各号には1枚ないし2枚のファッション・プレート *Costumes Parisiens* が添えられた。甲南女子大学が所蔵する *JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* パリ版（以下JDM）は、ほぼ完全な状態で揃っていること、そしてファッション・プレート *Costumes Parisiens* の総数が3700枚を超すこともあって、刊行年間、約40年間のモードとその変化のプロセスをうかがうことができる。ここでいうモードとはファッション、装いに限定されたものではなく、広くライフスタイルに係わるものとなっている。JDMには創刊当初から *MODES* と題したトピックが掲載され、装いの批評や噂話や様々な流行がまとめられている。創刊当初から連載が続くトピックはこの *MODES* のみで、大変に興味深いトピックである。

■ファッション・プレート *Costumes Parisiens*

JDMのファッション・プレート *Costumes Parisiens* には大別すると3種のものがある。女性服のプレート、男性服のプレート、髪型や服飾小物を含むアクセサリーのプレートの3種である。いずれも美しく彩色され、その美術的価値もJDMの魅力の一つである。*Costumes Parisiens* に描かれた装いは当時を知る貴重な視覚的資料であり、社交行事、結婚などの当時の一端をうかがうシーンをはじめ、スタイルの変化については特に克明に見ることができる。さらに、*Costumes Parisiens* にはほぼすべてにキャプションが記されており、このキャプションにも有用な情報が記されている。キャプションの記載量は総体的に1819以降、それまでに比べて顕著に増加する。店名や製作者の名前、住所が記載されるようになったことがその一因である。キャプションは描かれた装いを解説するものであり、1834年の3月から9月発行分を例外として、JDMにおいて *Costumes Parisiens* の装いを直接説明するのはこのキャプションのみである。キャプションは具体的なトレンド解説となっているが、色についての情報は皆無である。色についてのトレンド情報は、*Costumes Parisiens* の彩色よりも *MODES* の中に記されている。

JDMが長期の刊行であるため、描かれる人や装いにも変化が見られ、中には描かれた装いのアイテムから、モード誌、あるいはファッションの大衆化を感じさせるものもある。

■女性服のスタイルの変化（夜会服の場合）

JDMには女性服がハイウエストのエンパイア・スタイルからロマンチック・スタイルへと移行するプロセスが克明に描かれている。ウエストラインの位置の変化だけでなく、スカート丈、袖のボリューム、スカートのボリュームの変化についても見て取ることができる。

■ *Costumes Parisiens* の人物描写（構図）

女性服のプレートは創刊当初から1810年代は、女性一人を描いたものが多い。1820年代半ばから女性二人を描くことが多くなり、1825年の *Costumes Parisiens* 2362では初めて女性の衣裳を前面と背面から描いている。*Costumes Parisiens* 2389では衣裳の細部がアレンジされているが、*Costumes Parisiens* 3157のように背面は座位で描かれる場合を含めて、およそこの構図がその後約10年間主流となっている。

子どもと一緒に描かれたものは比較的早い時期から見られるが、男性と子ども、あるいは女性と子ども、子どもたちであり、男性と女性と子どもという、いわゆる家族が描かれたプレートは *Costumes Parisiens 3607* のみである。



Costumes Parisiens 304
(1802)



Costumes Parisiens 2362
(1825)



Costumes Parisiens 3607
(1838)

■さまざまなショール

ナポレオン1世統治時代にカシミアショールが流行したことはよく知られている。その後もショールというアイテムは姿を消すことなく、形や素材にバリエーションが生まれ、女性たちの装いに添えるアクセサリとして昼夜問わず装われた様子が分かる。



Costumes Parisiens 2941
(1831)
夜会服で装うショール



Costumes Parisiens 3102
(1833)
昼服(散歩服)で装うショール

■編集・掲載記事

JDMは1835年に一度、紙面のリニューアルを計っている。表紙デザインの一変と、連載記事 *MODES* の配置変えが主な内容である。表紙は装飾文字のみのデザインから版画絵を入れたデザインへと変わり、創刊以降初めて絵入りの表紙となった。その後、1837年57号からタイトルが *GAZETTE DES SALON, JOURNAL DES DAMES ET DES MODES* に改められた。これは *GAZETTE DES SALON* との合併によるものである。合併後も1837年内は、誌の体裁はこれまでのJDMと大きく変わらなかったが、同年71号(12月25日刊行)以後、*MODES* の配置は不規則になっている。さらに1838年からはそれまでの8頁構成が16頁構成となり、*MODES* は消え、これまでのJDMの体裁は失われた。その1年余りに本誌は終刊に至っている。1838年10月31日第60号には「編集・発行責任者からのお知らせ」が掲載された。その内容は興味深いもので、19世紀モード誌の変化をうかがわせている。

一、平安時代の女性の装束・・・十二単衣

●装束 ①桂・小桂姿 ②裳唐衣姿（女房装束） ③細長姿

●こだわり

①コーディネート（襲の色目）

- ・表と裏の地色の配色
- ・多くの衣服を重ね着して袖口や襟元に見える色の取り合わせ

『枕草子』

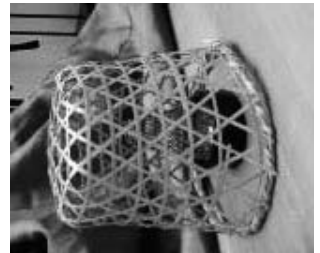
「すさまじきもの 昼ほゆる犬。春の綱代。三・四月の紅梅の衣。・・・」

紅梅襲（表が紅、裏は紫）は、一・二月着用の襲。

②香（薫物）

『源氏物語』梅枝の巻では、女性たちが各自秘伝の薫物（練香）を作り、香を競い合っている。伏籠を使い、衣に香を染み込ませる。

伏籠↓



二、おしやれを競い合う女房たち―『紫式部日記』の記述から

一条天皇と中宮彰子（藤原道長の娘）の間に敦成親王誕生（九月十一日）の夜 御湯殿の儀

《口語訳》 「宮（生まれたばかりの敦成親王―後の後一条天皇）は、殿（道長）がお抱き申しあげえ、お守刀は小少将が、虎の頭は宮の内侍がお持ちして、若宮のお先に立つて行かれる。宮の内侍の唐衣は、松笠の模様で、裳は海辺の景色を刺繍で織り出して、大海の地摺り模様にもせかけてある。裳の腰は薄物で、それに唐草の刺繍がしてある。小少将の君は、秋の草むら、蝶、鳥などの模様を、銀糸で刺繍しきらめかしてある。織物は身分上の制限があつて、誰もが好きなように着られるわけではないから、裳の大腰のところだけを、普通とちがった意匠にしてあるのだろう。」

※産時は、室内の調度品から女房の装束すべて白色とする。

三、『源氏物語』に登場する女性たち

①紫の上 母を亡くし、京都の北山で祖母に育てられていたところ、偶然北山を訪れていた光源氏に見出さる。この時源氏十八歳、紫の上十歳。その後源氏のもとで養育され、最も大切な妻となる。

②女三の宮 源氏の兄朱雀帝と女御（藤壺の妹）の娘。朱雀帝の寵愛を受け育つ。源氏は朱雀院の懇願を受け、妻として迎える。この時源氏四十歳、女三の宮十四〜十五歳。

③明石の方 光源氏が、右大臣側勢力から逃れるため、須磨明石に退去した際に出会う。前の明石守の娘。明石の方の年齢については、諸説ある。源氏との間に娘（明石の姫君）が誕生する。

④末摘花 故常陸宮の娘。父亡き後零落し、生活は困窮していた。琴（きん）を弾くとの噂を聞き、源氏は興味を持つ。交際を続けていたが、雪明りの朝源氏はその姿を見てしまい驚き、足が遠のく。鼻先が赤く長いことから、末摘花と呼ばれる。

四、装束から読む『源氏物語』

- 女楽の場面 若菜下の巻…正月十九日、源氏の私邸（六条院）で楽器の巧みな女性四人（女三の宮・紫の上・明石の中宮・明石の方）だけで合奏をさせる

①紫の上（三十九歳）

《口語訳》 「紫の上のほうは、葡萄染（表が紫、裏は赤か。一説には表は蘇芳、裏は縹色か）であろうか、色の濃い小桂、薄蘇芳（紫がかつた赤の薄い色か）の細長をお召しになり、その裾に御髪のゆつたりとたまっているところは、うるさいくらいであり、お体はちようど程よい大きさで、全体としてのお姿は申し分なく、あたり一面につややかな美しさがあふれている風情なのは、これを花にたとえれば桜といったところだが、その桜よりもさらにすぐれた美しいたたずまいは格別でいらつしやる。」

②女三の宮（二十一〜二歳）

《口語訳》 「宮の御方（女三の宮）のあたりを、（源氏が）おのぞきになると、どなたよりも格別に小柄でかわいいお姿で、ただお召物ばかりといった感じである。つやつやした美しさという点では劣るが、ただまことに気品あつて美しく…桜襲（表が白、裏は赤）の細長に、御髪が左右からこぼれかかつていて、柳の糸を縫りかけたような趣である。」

③明石の方（三十八歳くらいか）

《口語訳》 「このような方々のおそばにあつて、明石の御方は気圧されてしかるべきであるが、けつしてそうではなく、物腰など気がきいていて、こちらが恥し入りたいくらいだし、そのたしなみのほども心ひかれる深みがあり、どこことなく気品のただよう、しつとりとした美しさとみえる。柳襲（表が白、裏が青）の織物の細長に、萌黄（薄青と緑の中間色）であろうか、小桂を着て、さりげなく羅の裳をつけて、ことさらにへりくだっているけれど、そう思うせいか奥ゆかしく感じられ、軽々しく扱つてはならぬお方といった感じである。」

- 源氏が雪明りの下で見た末摘花の装束

④末摘花

《口語訳》 「（末摘花の）お召しになっているものことまであげつらうのは、慎みがない物言いのようであるけれど、昔物語にも、人の御装束のことを真つ先に言っているようである。それに倣つて言えば、薄紅色の表面がひどく白茶けている単衣を一かさね、その上に、もとの色目の見えぬくらい黒く汚れている桂を着重ねて、表着には黒貂（セーブル）の皮衣の、まことに立派で香のしみついているのを着ておいでになる。古風で由緒あるお召物であるけれども、やはり若い女人の御装束としては不似合で、仰々しい感じが美に際立っている。それでも、なるほどもしこの皮衣がなくては、さぞ寒かただらうと思われるお顔の色を、君（源氏）はおいたわしくらんになる。」

※口語訳の引用「」は、小学館 新編日本古典文学全集『源氏物語』一〜三による。

五、まとめ

- 平安時代のおしゃれ

・裳 ・襲の色目 ・香（各自秘伝の調合法があつた）

- 『源氏物語』では、誰がどのような装束を身にまとうかで、その登場人物の性格・人柄・境遇などを表現している。

若手研究者研究紹介

高齢女性の QOL 向上をサポートする衣服設計システム開発のための基礎研究

日本女子大学 全 昭琬

1. 背景と目的

高齢社会はもはや先進諸国だけでなく、全世界で急速に進んでいる。すでに日本は超高齢社会を形成しており、高齢者が健康で質の高い生活を送ることは重要な課題となっており、高齢者のための製品設計に有益な情報が各分野で求められている。しかし、高齢者の日常動作を配慮して身体形状を捉えた報告はほとんどない。衣服においても体型変化や身体機能を考慮した衣服は少なく、体型変化に対応でき、身体機能をサポートするための基本情報さえ、十分には提供されていない。

そこで本研究では、高齢者の快適で安全な衣生活を保障するための基礎研究となる、身体の寸法と身体形状を把握し、衣服設計のための指標を明確化することを目的とした。本研究は衣服設計のみならず、高齢者を対象とする様々な製品開発のための基礎となるものでもある。

2. 高齢女性と若年女性の体型特徴の比較

高齢者の衣服の適合性を向上させるためには、身体の寸法と身体の体形を把握する必要があるが、衣服設計を前提とした高齢者の三次元形状に基づく全身体形分析は充分には行われていない。そこで、高齢女性 30 名と三次元スキャンデータの分析用の若年女性 10 名、および相同モデル用の若年女性 45 名の立位姿勢での三次元スキャンデータの形状を採取し、高齢女性の立位姿勢における体型特徴について若年女性との比較から検討した。さらに、人体と解剖学的対応点をもつ相

同モデルを作成し、主成分分析により高齢女性と若年女性の立位姿勢の全身平均形状を導出し、若年女性との比較から高齢女性の体形特徴を詳細に分析した。

三次元スキャンデータの分析の結果から、高齢女性は若年女性より背面突出点・頸椎点水平距離、背部傾斜角度が大きく、背面突出点・ウエスト水平距離、乳頭・前水平ウエスト線長さが短く、首が前に出て上半身の前傾、前湾、乳房の下垂などの体形特徴を示すことが明らかになった。高齢女性の形状の主成分分析から、高齢女性の形状因子として、高径項目の高低、脊椎の湾曲度、脊椎の前後の傾斜、脊椎の傾斜の左右差、肥瘦度、胴部前面の突出度の因子が抽出され、加齢に伴い高齢者特有の体型となっていくことが示された。

3. 高齢女性の座位姿勢の体幹形状の分析

高齢女性の体型、姿勢、動作に適合した衣服と座位人台設計のために、日常生活の主な姿勢である座位姿勢に着目して体幹部の体形変化を検討し、座位形状における体形特徴を捉えた。被験者は 65 歳 - 80 歳の高齢女性 30 名で、座位姿勢の三次元スキャンデータを採取し、立位姿勢との比較から座位姿勢における体幹部の体形特徴を分析した。さらに、座位姿勢における相同モデルを作成し、主成分分析を行い、立位姿勢と座位姿勢の体幹形状の相違を明らかにした。

高齢女性の立位姿勢と座位姿勢における体幹部の三次元スキャンデータから、高齢女性は立位姿勢時より座位姿勢時に前側丈項目が減少、後側丈項目が増加してより前傾・前湾し、腹部が大きくなる傾向が示され

た。形状の主成分分析の結果から、高齢女性の座位姿勢における体型の特徴は背面の前湾、腹部の前突によって約 55%、高径と周径・幅径のバランス、肥瘦度を加えて 80%以上説明できた。また、座位形状では第 2 主成分に腹部の形状が抽出され、腹部の突出が衣服設計上、特に配慮すべき重要な因子であることが明らかになった。

この研究は日本家政学会誌第 64 巻第 10 号(2013)にも掲載されている。

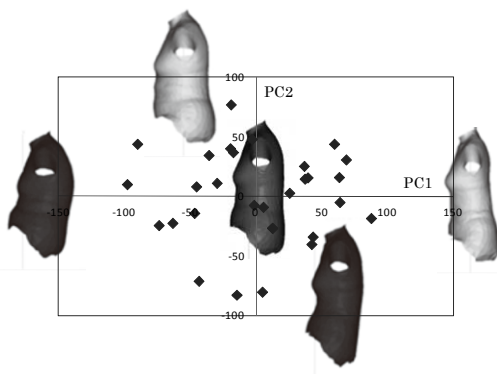


図1. 高齢女性の座位姿勢における相同モデルの主成分得点による散布図と人体形状 (横軸:PC1, 縦軸:PC2)

4. 高齢女性の人体形状を配慮した衣服設計

前述の三次元形状の主成分分析から得られた高齢女性と若年女性の平均形状を、3D~2D パターン生成ソフトウェア LookStailor X を用い、ゆるみのない仮想タイトフィッティングにより衣服パターンに展開し、高齢女性の体型と衣服パターンとの関係を検討した。

結果、高齢女性の平均形状のパターンは若年女性の平均形状のパターンに比べ、身頃の幅が大きく、後シヨルダダーツ量が多く、前後のウエストダーツ量が少ないなどの高齢者特有の特徴が示され、これまでのサイズグレーディングの考え方では高齢者の衣服には対応できないことが明らかになった。

このような形状特徴を人台や様々な姿勢の平均形状

の仮想人台を用いてコンピュータ上で仮想立体裁断によるパターン設計をすることで、さまざまなサイズや体型がカバーでき、高齢者にとってより適合性の高い衣服設計ができるものと考えられる。

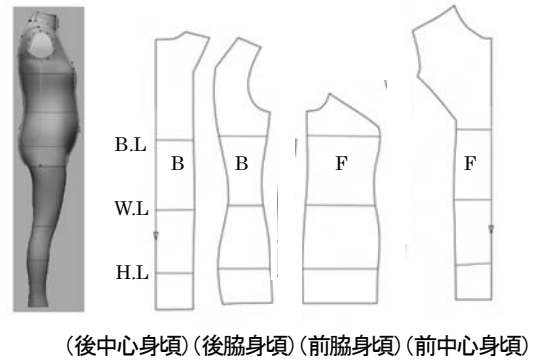


図2. 高齢女性の平均形状の側面図とパターン

5. 結論

本研究では、一次元、二次元、三次元データを用いることで、これまで明らかにされてこなかった高齢女性の立位姿勢と座位姿勢の体幹部形状の特徴を明らかにした。また、独自に導出した平均形状を用い、バーチャル空間内で立体裁断を行い、体型フィットパターンを作成することを試み、その有効性について検討した。

今後はこれらのデータをさらに構築してデータベース化し、パーソナル対応の衣服設計や高齢者の QOL 向上につながる衣服設計への応用をめざしたい。同時に高齢社会における様々な製品設計のための研究へと発展させていきたい。

本研究は 2014 年 3 月、日本女子大学大学院 人間生活学研究科 博士課程学位論文による。

謝辞

研究を進めるにあたりご指導いただきました、日本女子大学の大家美智子教授に心から感謝申し上げます。

第15回全国中学生創造ものづくり教育フェア 報告

埼玉大学 川端 博子

全国中学生創造ものづくり教育フェアは平成27年1月24日・25日新木場タワーで開催された。アイデアバック、ロボット、木工チャレンジ、お弁当作り、パソコン入力、授業や課外を含めた技術・家庭科の作品コンクールの6部門がある。被服構成学部会は協賛団体として、「豊かな生活を創るアイデアバック」を考案・製作するコンクールの審査を務め、文部科学大臣省はじめとする省庁、学会、大学そして被服構成学部会長賞など8つの賞の決定にかかわっている。生徒作品コンクールでは2件の奨励賞として賞状を贈呈している。今回、鳴海前部会長の後任として、アイデアバックの審査委員長を務めた。本稿の執筆に当たって過去の部会誌に目を通したところ、丁寧に報告されており、今年も例年に準じて行われた。当日の様子は、HPに掲載されているので参照いただきたい。

www.ajgika.ne.jp/page.php?p=fair_15

フェアは、ものづくり学習の成果発表と表彰することによりものづくりの喜びと意欲関心を高めることを意図しており、中学校技術・家庭科の教員が企画・運営している。会場には、地方予選を勝ち抜いた選手16名が一堂に会し、保護者や教師そしてミシンの保守の人たちが見守る中、3時間半、練習で磨いた技を競って作品づくりに励んだ。私を含め審査員4名は、提出された製作レポートを採点して予習し、本番では審査の基準に則って、製作工程の技能を採点していく。生徒の作品はそれぞれであり、例えば頻繁にアイロンを使う生徒もあればそうでない生徒もいるなど、評価項目の現場に居合わせるのに苦労する。選手たちの腕前は相当高いレベルにあるのは言うまでもないが、速さを競うあまりにしつけや待ち針を打たないでミシンをかける生徒もいて、基礎技能に関する指導の在り方について考えさせられた。

聞くところ10個を超えるバックを繰り返し製作してきている生徒たちであるが、あとほんの少しのとこ

ろで完成に至らず涙する生徒もいた。作品に込められた思い・工夫・用途をプレゼンテーションして、初日は閉会となり、その後、時間をかけて審査が行われた。




翌日は表彰式・閉会式である。次ページに被服構成学部会長賞に選ばれた松江市立第三中学校3年 高野朝陽さんのバックを掲載した。賞状ほか副賞としてディベアのキッドなど、本部会が編集したスクールソングの本を渡し、喜んでもらった。その後、委員長として競技の講評・総括を行った。

作品コンクールは、近場にある木材会館で開催されており、ホールには全国からの生徒作品が所狭しに展示されていた。こちらの部門の審査は別組織で行われており、被服構成学部会にふさわしいと思われる作品に奨励賞が授与されていた。その他、多くの作品に頼もしさを感じ、指導に関わった教師の御苦労を思うと頭が下がる。しかし、実際は、フェアへの参加者は地域に偏りがあって、普及の面から十分とはいえない。以前は選択の時間に取り組めたけれど、今は難しいという教師の声も聞かれた。こうしたコンクールを知らない生徒・教師が多いと思われるので、本部会員が教育実習生の指導で中学校に行く機会などをとらえて全国に宣伝していくことも必要であると感じた。

参加者控えのホールには、ペットボトルのキャップを利用したピンクッション作成の体験コーナーを設け、本研究室の院生2名、学部生2名が早朝より参加・協力してくれた。70名近くが体験し、とても好評であった。新木場タワーから展望できる東京湾は、朝日をうけて赤からさまざまトーンのブルーに変化していく。競技・審査中は、海の色を楽しむ余裕などないが、休憩時にはものづくり体験コーナーと海の景色が憩いとなっていた。

競技と審査の様子



アイデアバック部門	作品コンクール部門	
被服構成学部会長賞	奨励賞	
松江市立第三中学校3年 高野 朝陽	丸亀市立綾歌中学校1年 森井 日向子	上越市立城東中学校3年 八木 胡桃
取り出しやすい母のための通勤バッグ	おばあちゃんの収穫エプロン	ケープ付きワンピース
<p>お母さんへの贈り物として製作した。ポケットをたくさんつけて整理用のポーチや小さなカバンを少なくすることで、同じ量を収納しても軽くなるように、毎日使うものを取り出しやすくなるように工夫している。</p>	<p>野菜作りの上手なおばあちゃんのために考えた大きなポケットが付いたエプロンである。簡単に取り外しができる工夫があり、実用性の高い作品である。</p>	<p>外出着としてコーディネートが楽しめるワンピースとケープ、パニエである。チェック柄の合わせ方や縫製の技術に優れ丁寧に仕上げられた作品である。</p>
		

ものづくり体験コーナー・海の景色



関連学会短信

<日本繊維製品消費科学会>

滋賀県立大学 森下あおい

2014年度の年次大会は、6月28日(土)・29日(日)に京都工芸繊維大学の松ヶ崎キャンパスにて行われた。

発表件数は、口頭発表118件、ポスター発表57件、企画発表9件、特別講演1件、さらに学生発表12件があり、参加者は過去最高数の340名であった。

特別講演は、「行動観察による『知的な勇氣』:イノベーションをおこすために」をテーマとして大阪ガス行動観察研究所常務取締役の松波晴人氏により、近年注目の「行動観察」の有用性が指摘された。

口頭発表・ポスター発表には、今年度から新しく「環境・安全・災害」の分野が加わり、「材料・染織の文化」、「染色加工・整理」、「快適性・生理」、「心理・ファッション・色彩」、「構成・衣服製造システム」、「消費者・流通問題」、「技術レポート・製品紹介」の計8分野によって行われた。これらの多岐の分野にまたがる社会、生活、人間に密着した研究内容は、繊維領域の内容の幅広さと感じさ、会場では企業関係者と大学研究、教育関係者によって多数の意見交換が行われた。また学生発表も活発に行われたことは、学会にとって大変心強い方向を感じさせた。

さらに企画発表は、開催校の京都工芸繊維大学の研究者から、「色の視点からみた繊維研究と環境・安全、そして教育のかかわり」のテーマについてが話され、次に太陽工業株式会社、東レ株式会社、東洋紡株式会社からは「快適な睡眠をとるための寝具素材」のテーマについて、さらにグンゼ株式会社、株式会社ワコール、花王株式会社から「エイジング」のテーマについて発表が行われた。これら3テーマは共通して『快適性』を捉えたもので、複数の視点による企画内容は、消費科学会ならではの専門性によって聴講者の関心が高められる充実した内容であった。

京都らしい山々を背景に閑静な住宅に囲まれた松ヶ崎キャンパスでの学会は、遠方からも多数の参加者が集まり、大変盛況な学会となった。

<日本衣服学会>

広島大学 村上かおり

衣服学会の第66回(平成26年度)年次大会は、平成26年11月15日に東京学芸大学講義棟S棟2F(口頭発表:S203教室、ポスター発表:S201教室)で開催された。発表は口頭発表14演題、ポスター発表7演題で、被服教育、着物文化、洗濯、被服製作、快適性、被服材料等に関する内容であった。非常に多様な内容の発表で質疑応答も活発であった(写真参照)。



ポスター発表会場の様子

特別講演は「授乳服がつくる新しい仕事スタイル～モーハウスの子連れワーク～」と題し、モーハウス代表取締役の光畑由佳氏にご講演いただいた。被服学を学んだことを活かし、授乳服を製作するようになった経緯と現在の活動状況を伺い、多くの刺激とエネルギーを得ることができた。

夕方には学内の小金井クラブにおいて、懇親会が開催された。今年度は優秀発表者の表彰制度が設けられ、2件の発表者が表彰された。また各種委員会による学会活性化の取り組みも紹介され、会員相互の衣服学会に対する想いを理解することにより、親睦が深められた。

また学会翌日には、浅草にあるアミューズミュージアムにおいて、「布の絵画BORO～美しいぼろ布展～」の見学会が催された。大切に繕われたぼろ布について学芸員から解説を聞き、布に宿る力を感じることができた。ミュージアム屋上からは間近にスカイツリーも展望でき、情緒ある浅草の街を満喫することができた。

平成 26 年度 研究動向（修士論文テーマ・科学研究費補助金研究課題）

「平成 26 年度修士論文テーマ」

「中学校家庭科における「まつり縫い」学習の指導方法に関する研究」山本夏帆（指導：鳴海多恵子）東京学芸大学大学院教育学研究科 家政教育専攻

「衣服着脱容易性を配慮した高齢者用上衣構造の検討—上肢関節可動域と上衣構造の関係—」鯨岡詩織（指導：大塚美智子）日本女子大学大学院家政学研究科 被服学専攻

「布を用いた製作学習の実態と ICT を用いた改善への試み」中谷俊裕（指導：川端博子）埼玉大学大学院教育学研究科 教科教育専攻 家政教育専修

「ゆかたの着装体験を通じ伝統文化の伝承をめざした教育プログラムの開発」大矢幸江（指導：薩本弥生）横浜国立大学大学院教育学研究科 教育実践専攻

「中学校及び高等学校家庭科における着学習の在り方に関する研究—被服と自己の表出との関係性—」下窪美咲（指導：鈴木明子，村上千かおり）広島大学大学院教育学研究科 生涯活動教育学専攻 人間生活教育学専修

「平成 26 年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究（A）

「無線通信による熱中症予防支援システムの構築と被服環境デザインの最適化」，平成 23 年から 26 年度，研究代表者：横浜国立大学 薩本弥生

「アパレルの質と国際競争力向上の基盤となる日本人の人体計測データの構築と多角的分析」，平成 25 年から 30 年度，研究代表者：日本女子大学 大塚美智子

基盤研究（B）

「エシカルな 3 次元エルダーファッションシステムの開発」，平成 25 年から 27 年度，研究代表者：三重大学 増田智恵

基盤研究（C）

「幼児期の手指の巧緻性の実態と発達」，平成 24 年から 26 年度，研究代表者：東京学芸大学 鳴海多恵子

「ICT 活用による被服製作学習の支援」，平成 26 年から 28 年度，研究代表者：埼玉大学 川端博子

「肢体不自由者の更衣動作を助ける座位姿勢に適したズボンの設計」，平成 26 年から 28 年度，研究代表者：熊本大学 雙田珠己

若手研究 (B)

「幼児の手指の巧緻性の向上を促す衣服の開発」, 平成 24 年から 26 年度: 目白大学 高橋美登梨

「布の「しっとり」に関する素材物性を用いた評価尺度の構築」, 平成 25 年から 26 年度: 武庫川女子大学短期大学部 末弘 由佳理

((注) 継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対してお申し出頂いた分のみを掲載しました.)

会 務 報 告

1. 平成 26 年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時：平成 26 年 5 月 24 日（土）

場所：北九州国際会議場 3 階 32 会議室

② 夏期セミナー

「次世代につなぐ服づくりの技」

日時：平成 26 年 8 月 28 日（木）

場所：アルカディア市ヶ谷

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：平成 26 年 1 月 24 日（土） 25 日（日）

場所：新木場タワー

④ 研究例会

「貴重書から読み解く服飾の魅力」

日時：平成 27 年 3 月 16 日（月）

場所：甲南女子大学 832 教室・図書館

⑤ 部会誌 36 号発行 平成 27 年 3 月 31 日（火）

⑥ ホームページの維持管理

⑦ 科学研究費（基盤研究（A））研究活動

2) 庶務報告

① 第 1 回運営委員会

日時：平成 26 年 4 月 27 日（日）

場所：大妻女子大学 千代田キャンパス

A 棟 353 ゼミ室

(1) 平成 26 年度夏期セミナーについて

(2) 平成 25 年度会計報告

(3) 平成 25 年度夏期セミナー会計報告

(4) 平成 25 年度会計監査報告

(5) 平成 26 年度予算（案）について

(6) 今後の事業計画について

(7) 名誉会員について

(8) 平成 26 年度総会準備

② 第 2 回運営委員会

日時：平成 26 年 5 月 24 日（土）

場所：北九州国際会議場 3 階 32 会議室

(1) 総会準備

(2) 平成 26 年度夏期セミナーについて

(3) 部会誌第 36 号編集案について

③ 第 3 回運営委員会

日時：平成 26 年 8 月 27 日（水）

場所：日本女子大学新泉山館 2 階 小会議室

(1) 平成 26 年度研究例会について

(2) 平成 27 年度夏期セミナーについて

(3) 部会誌 36 号編集案について

3) 会計報告（次頁以降参照）

2. 平成 27 年度事業計画（案）

① 総会

日時：平成 27 年 5 月 23 日（土）

場所：いわて県民情報交流センターアイーナ

② 夏期セミナー

日時：平成 27 年 8 月 27 日（木） 28 日（金）

場所：ウインクあいち

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：平成 28 年 1 月下旬

場所：新木場タワー（予定）

④ 研究例会

⑤ 部会誌 37 号の発行

- ⑥ ホームページの維持管理
- ⑦ 科学研究費の研究活動
- ⑧ その他

平成25年度 被服構成学協会 夏期セミナー 収支報告書

◆夏期セミナー

収入の部

費目	予算	決算	備考
参加費	250,000	180,000	会員5,000×36名
学会活動助成金	100,000	100,000	
部会会計より補助費	350,000	350,000	
合計	700,000	630,000	

支出の部

費目	予算	決算	備考
1 会場費	85,000	81,347	
2 講師謝礼	122,507	133,644	徴収税 13,644円を含む
3 要旨集	80,000	28,350	
4 旅費交通費	130,000	118,110	
5 通信運搬費	20,000	13,100	
6 印刷費	30,000	3,804	
7 雑費	20,000	27,413	
8 会議費	100,000	47,820	
9 庶務費	20,000	1,134	
10 人件費	40,000	40,000	
11 予備費	52,493	3,450	懇親会費不足分、講師お弁当代
合計	700,000	498,172	

差引残高 630,000-498,172=131,828

◆懇親会

収入の部

費目	予算	決算	備考
懇親会費	165,000	191,000	会員・非会員 5,000円×37名 学生 3,000円×2名
予備費より補助	10,000	2,250	
合計	175,000	193,250	

支出の部

費目	予算	決算	備考
食事		168,000	4200円×40名
飲み物		25,250	
合計	175,000	193,250	

差引残高 193,250-193,250=0

平成25年10月1日
会計 十一 玲子 田中 早苗

貸借対照表（平成26年3月31日現在）

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金	0	277	▲ 277
普通預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)	613,250	354,967	258,283
通常預金			
振替口座(ゆうちょ銀行〇一九)	183,708	145,520	38,188
流動資産合計	796,958	500,764	296,194
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)	1,000,000	1,500,000	▲ 500,000
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	1,000,000	1,500,000	▲ 500,000
資産合計	1,796,958	2,000,764	▲ 203,806
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金		0	0
負債合計		0	0
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	1,796,958	2,000,764	▲ 203,806
負債及び正味財産合計	1,796,958	2,000,764	▲ 203,806

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 久保田 紀久枝 殿


私ども監事は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの平成25年度の部会の重要な会議に出席するほか、事業報告を聞き、重要な書類を閲覧し、主要な調査を行い、かつ財務諸表及び収支計算書につき監査を実施した結果、次のとおり報告します。


1. 事業報告は規程に従い、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 財務諸表すなわち貸借対照表は平成25年度期末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 収支計算書は平成25年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 理事の職務遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

平成26年 4 月 27 日

一般社団法人 日 本 家 政 学 会
(裾 服 構 成 学) 部 会

監事 大村知子 

監事 布施谷節子 

被服構成学部会収支計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

科目	予算	決算	備考
Ⅰ 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用益		119	
特定資産運用益			
受取入金			
受取会費	300,000	297,500	部会費@2,500×119名
事業収入	450,000	371,000	
会誌購読料			
大会等参加費	450,000	371,000	夏期セミナー参加費・懇親会費
広告料			
学会刊行物売上			
著者負担金			
受取補助金			
一般寄付金		21,200	高部氏10,000円, 大村氏11,200円
特別寄付金			
雑収入	3,000	76	
★本部からの繰入金収入	100,000	231,965	活動助成金
事業活動収入計	853,000	921,860	
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	1,303,000	1,125,666	
大会等関連費用	3,000	0	
会場使用料			
消耗品			
印刷費			
通信運搬費			
臨時雇賃金			
講演会等関連費用	800,000	821,137	夏期セミナー 498,172円 懇親会費 191,000円 大会シンポジウム 66,822円 研究例会 65,143円
会場使用料			
講師謝金			
消耗品			
通信運搬費			
臨時雇賃金			
学会誌等関連費用	80,000	57,585	部会誌印刷・発行
印刷費		42,000	
通信費		15,585	
編集委員会費		0	
研究発表要旨集関連費用			
研究補助費			
表彰費	20,000	10,757	ものづくりフェア副賞
関連学会費	10,000	10,000	ものづくりフェア協賛金
給料手当			
広報費	35,000	33,150	HP契約・維持費
福利厚生費			
旅費交通費	150,000	89,130	
通信運搬費	40,000	8,050	
備品費			
消耗品費	5,000	931	
光熱水料費			
雑費	20,000	6,000	
総会費			
事務委託費			
租税公課			
地代			
会議費	130,000	86,591	
支払負担金	5,000	2,335	振込料
印刷費	5,000	0	
諸謝金			
修繕費			
減価償却費			
リース料			
事務所管理費			
② 管理費支出			※法人会計科目につき省略
事業活動支出計	1,303,000	1,125,666	
事業活動収支差額	▲ 450,000	▲ 203,806	
Ⅱ 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入	450,000	500,000	
2. 投資活動支出			
投資活動収支差額	450,000	500,000	
Ⅲ 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
2. 財務活動支出			
財務活動収支差額	0	0	
当期収支差額	0	296,194	
前期繰越収支差額	500,764	500,764	
次期繰越収支差額	500,764	796,958	

被服構成学協会収支予算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

科目	H26年度予算	H25年度予算	H25 - H26 (差額)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用益				
特定資産運用益	150	0	150	
受取入会金				
受取会費	300,000	300,000	0	部会費@2,500×120名
事業収入	450,000	450,000	0	
会誌購読料				
大会等参加費	450,000	450,000	0	夏期セミナー参加費・懇親会費
広告料				
学会刊行物売上				
著者負担金				
受取補助金				
一般寄付金				
特別寄付金				
雑収入	3,000	3,000	0	
★本部からの繰入金収入	100,000	100,000	0	活動助成金
事業活動収入計	853,000	853,000	0	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	1,353,000	1,303,000	50,000	
大会等関連費用	0	3,000	▲ 3,000	
会場使用料				
消耗品				
印刷費				
通信運搬費				
臨時雇賃金				
講演会等関連費用	800,000	800,000	0	夏期セミナー、研究例会
会場使用料				
講師謝金				
消耗品				
通信運搬費				
臨時雇賃金				
学会誌等関連費用	80,000	80,000	0	
印刷費				
通信費				
編集委員会費				
研究発表要旨集関連費用				
研究補助費				
表彰費	20,000	20,000	0	ものづくりフェア副賞
関連学会費	10,000	10,000	0	ものづくりフェア協賛金
給料手当				
広報費	35,000	35,000	0	HP契約・維持費
福利厚生費				
旅費交通費	180,000	150,000	30,000	
通信運搬費	40,000	40,000	0	
備品費				
消耗品費	8,000	5,000	3,000	
光熱水料費				
雑費	20,000	20,000	0	
総会費				
事務委託費				
租税公課				
地代				
会議費	150,000	130,000	20,000	
支払負担金	5,000	5,000	0	振込料
印刷費	5,000	5,000	0	
諸謝金				
修繕費				
減価償却費				
リース料				
事務所管理費				
②管理費支出			0	※法人会計科目につき省略
事業活動支出計	1,353,000	1,303,000	50,000	
事業活動収支差額	▲ 500,000	▲ 450,000	▲ 50,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	500,000	450,000	50,000	
2. 投資活動支出				
投資活動収支差額	500,000	450,000	50,000	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
2. 財務活動支出				
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	796,958	500,764	296,194	
次期繰越収支差額	796,958	500,764	296,194	

お 知 ら せ

1. 会費納入について

平成27年度の被服構成学部の会費2,500円は、5月中旬に下記郵便払込口座にご送金くださるよう、お願い申し上げます。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部の会
--

なお、会費に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地

大妻女子大学 短期大学部 中村 邦子 宛

TEL・FAX：03-5275-5266

E-mail：nakamuraku@otsuma.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記にお願いいたします。

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500番地

滋賀県立大学 人間文化学部 森下 あおい 宛

TEL・FAX：0749-28-8425

E-mail：morishita@shc.usp.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照下さい。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので、部会への手続きも併せてさせていただきますようお願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力いただきありがとうございます。アドレスをお持ちの方でまだ登録いただいていない方は、平成27年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです。またアドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますようお願い申し上げます。

4. 平成26年度新入会員

上西 朋子 (実践女子大学)

富田 弘美 (東京家政学院大学)

小田 久美子 (名古屋女子大学)

武本 歩美 (日本女子大学)

金子 真希 (東京家政大学)

平成27年度夏期セミナー 予告

被服と安全・安心

日時：平成27年8月27日(木)・28日(金)

場所：ウインクあいち（愛知県名古屋市 中村区名駅 4-4-38）

プログラム

	8月27日(木)		8月28日(金)
12:30～	受付	9:00～	受付
13:00～	開会の辞		
13:10～14:25	<講演1> 色の観点から 佐川 賢 氏	9:30～10:15	<縫製と安全> 株式会社 ハシマ
14:25～15:40	<講演2> 幼児の観点から 掛札 逸美 氏	10:15～11:00	アイシン精機株式会社
15:40～16:00	休憩	11:00～11:15	休憩
16:00～17:15	<講演3> 障がい者の観点から 見寺 貞子 氏	11:15～12:00	科研費基盤Aによる日本人 の人体計測に関する報告 大塚美智子・渡邊敬子氏
17:15～17:45	<災害と衣生活> 部会員報告1 阪神淡路大震災 森 由紀 氏	12:00～	昼食・移動
17:45～18:15	部会員報告2 東日本大震災 田中 早苗 氏	13:15～	<見学会> トヨタ産業技術記念会館
18:30～	懇親会	15:15頃	解散

ご講演のタイトルが決まり次第ホームページでお知らせします。

問合せ先 埼玉大学 川端博子 kawabata@mail.saitama-u.ac.jp

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名 称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目 的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事 業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会 員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する一般社団法人日本家政学会会員で、本部会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 名誉会員 元部会長、または、特に部会の発展に寄与した会員で、70歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
- 第5条（入 会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第6条（退 会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。
この場合、既納の会費は返却しない。
- 第7条（役 員） 本会に次の役員をおく。
- 部会長 1名
副部会長 2名
運営委員 若干名
監 事 2名
- 第8条（役員を選任） 役員を選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。
- 第9条（役員任期） 1 役員任期は2年とし、再任を妨げない。
2 役員再任については、申し合わせを別に定める。
- 第10条（役員職務） 役員職務は次のとおりとする。
- 1 部会長は部会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。
 - 2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。
 - 3 運営委員会は本会の業務を運営する。
 - 4 監事は本会の会計監査を行う。

第 11 条 (役員 の 解任) 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。

- 1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
- 2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 12 条 (会 計) 本会の会計は次のとおりとする。

- 1 経費は正会員の会費、その他をもってまかなう。
- 2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 13 条 (規約の改廃) 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

- 1 施行に関する内規は別に定めることができる。
- 2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。
- 3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。
- 4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。
- 5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。
- 7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。
- 8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。
- 9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。
- 10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。
- 11 この規約の一部改正施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

平成 26・27 年度役員

部会長	森 由紀	甲南女子大学
副部会長	大塚美智子	日本女子大学
	鈴木 明子	広島大学

運営委員

(庶務)	森下あおい	滋賀県立大学
	小山 京子	美作大学
	石垣 理子	昭和女子大学

(会計)	中村 邦子	大妻女子大学短期大学部
	渡部 旬子	文化学園大学
	葛西 美樹	東北女子大学

(企画)	川端 博子	埼玉大学
	服部由美子	福井大学
	滝沢 愛	椋山女学園大学

(広報)	薩本 弥生	横浜国立大学
	丸田 直美	共立女子大学

(編集)	十一 玲子	神戸女子大学
	土肥麻佐子	大妻女子大学短期大学部
	村上かおり	広島大学

(監事)	布施谷節子	和洋女子大学
	鳴海多恵子	東京学芸大学

事務局 〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23
甲南女子大学 人間科学部 生活環境学科
TEL & FAX : 078-413-3004
E-mail : moriyuki@konan-wu.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日	
	ローマ字			
	氏名	氏	名	
	西暦	19 年生	性別	男・女 (どちらかを○で囲む)
家政学会所属支部				
自宅住所	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
勤務先・職名 および所在地	勤務先		職名	
	〒(-)			
	TEL		FAX	
	E-mail			
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>			
最終学歴				
学位				
部会誌送付先	自宅・勤務先 (どちらかを○で囲む)			

太線枠内は必ず記入してください。細線枠内は差支えない範囲でお書きください。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出下さい。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL: <http://h-kohsei.com>

編集後記

部会誌の編集及び執筆にご協力いただいた先生方に心よりお礼申し上げます。本号では、高部啓子先生の功労賞受賞というおめでたい記事を掲載することができました。編集に関わった一人として、喜びを感じるとともに、さらに被服構成学の分野がますます発展できるよう精進していきたいと思いました。来年度も引き続き編集に関わらせていただきますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(村上)

原稿執筆などにご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。今回、部会の活動を通じ、また初めて編集という仕事し、多くのことを学ばせていただきました。来年度、編集作業をするにあたり、部会長の先生をはじめ、諸先輩の先生方のご指導・ご協力のもと、部会誌が会員の皆様の情報源としてお手元に届けられるよう、微力ではありますが頑張りたいと思っております。よろしく申し上げます。

(十一)

平成 27 年 3 月 31 日発行

発行：(一社) 日本家政学会 被服構成学部会

印刷：株式会社ニシキプリント

TEL：082-277-6954